

「ツキノワグマの発音」

日本にいる野生のクマは2種類だけです。北海道のヒグマとそれ以外の場所にいるツキノワグマです。軽井沢や草津で「クマが出た!」というのは、「ツキノワグマが出現した!」ということです。



「ツキノワグマ」 小諸動物園（懐古園の中にあります）にて。確かに首の下に「三日月型」の模様。ストレスがたまっているようで、棒ばかりかじっていました。熊の威厳はあまり感じませんでした。

ところで、私はこの「ツキノワグマ」の発音が気になっています。一般的には、下のような抑揚で発音されています。

ツ キ ノ ワ グ マ

「讃岐うどん」の抑揚と同じです。NHKのアナウンサーですら、この発音をしています。これでは「ツキノ・ワグマ」という意味になってしまい、「ワグマ」という動物の一種がいることとなります。もちろん、そんなものいません。正しい発音は、

ツ キノワグ マ

のはずです。「戸隠そば」の抑揚と同じです。これなら「ツキノワ・クマ（月の輪熊）」という意味になり、本来の和名の意図と合致します。まあ、当のクマにとっては、どうでもいいことなのでしょうけど・・・

実は動植物の和名の中には、解釈や発音が間違えていて、その和名の意味を誤ってとらえているものが結構たくさんあります。その中でも、一番同情すべき例が「クサレダマ」でしょう。

高原に咲くクサレダマ（サクラソウ科）は可憐な黄色い花の植物ですが、なぜか「腐れ玉」と誤解釈されることが多く、「くされだま」（「おもてなし」と同じ抑揚）と発音されるので、いい印象を与えません。「草麗玉」という美しい名前が本当で、「くされだま」（「夏まつり」と同じ抑揚）と発音されるべきです。レダマ（マメ科）に似ていて、草本（多年草）なのでこの名があるのです。動植物の和名はカタカナで書くのが標準で、私も子どもたちのそのように教えています。しかし、漢字ではこう書く、というのも大切だと思います。

牧野富太郎の植物図鑑には、和名表記に必ず漢字が添えられています。とても勉強になります。